

宇都宮市の将来人口推計について

○ はじめに

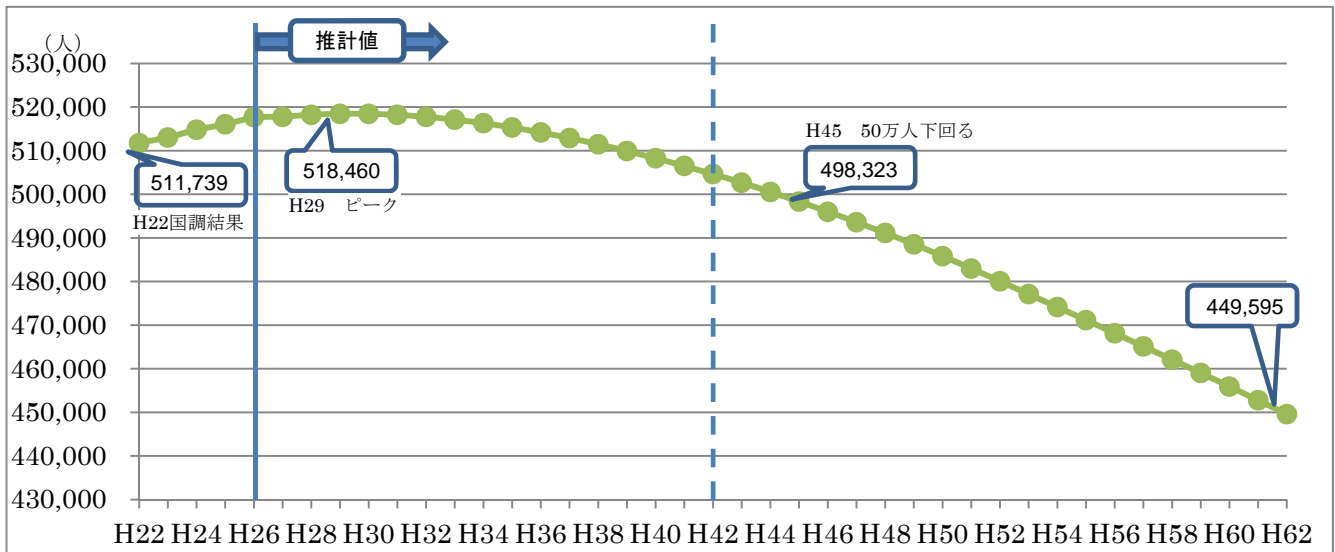
この将来人口推計については、平成 27 年 2 月に策定した、「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」の中で、これまでの傾向が今後も続くものと仮定して、2050 年までの人口の推移を示したものである。

1 推計結果

(1) 総人口の推移

平成 22 (2010) 年の総人口は、国勢調査の結果によると、511,739 人であった。今後は、平成 29 (2017) 年の 518,460 人をピークとして、平成 32 (2020) 年までは徐々に人口が減少、その後、加速的に人口が減少し、平成 45 (2033) 年には、498,323 人となり、初めて 50 万人を下回る見通しとなっている。推計最終年の平成 62 (2050) 年には、449,595 人となり、平成 29 (2017) 年のピーク時から 33 年間で、約 6 万 9 千人減少するものと見込まれる。

【図 1】 総人口の推移



【表 1】 総人口の推移

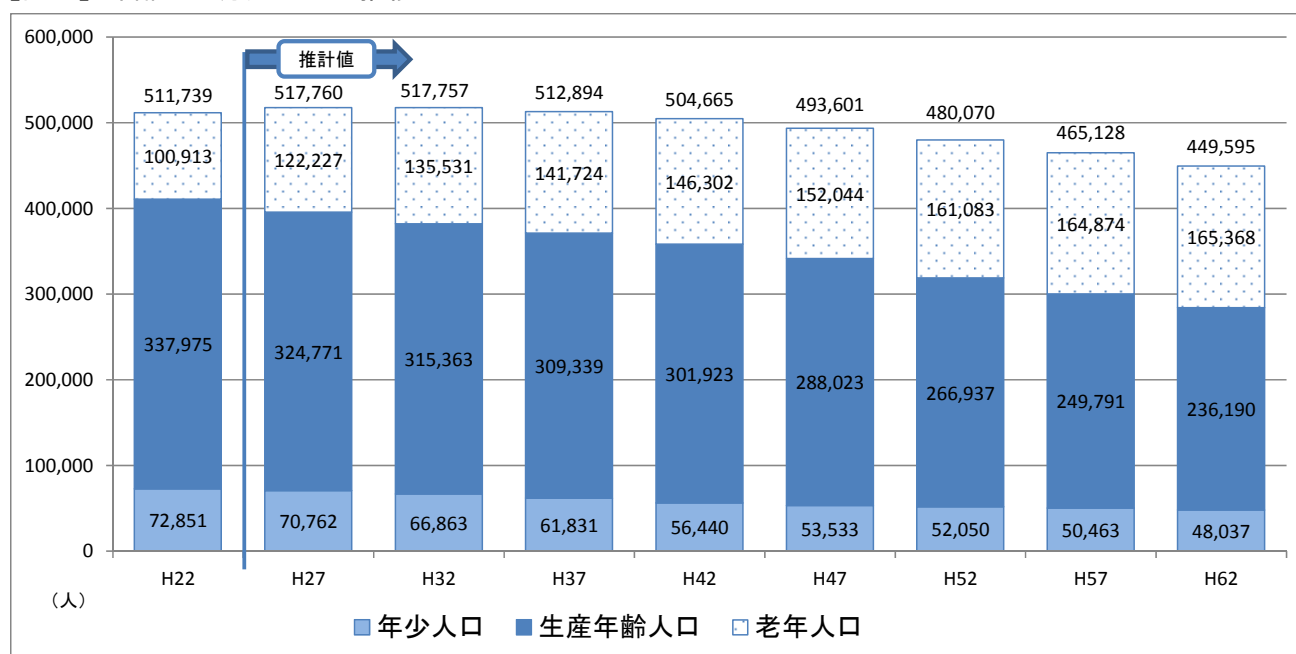
	実績値		推計値						
	H22 (2010)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)
総数	511,739	517,760	517,757	512,894	504,665	493,601	480,070	465,128	449,595
男	254,607	257,753	257,763	255,261	251,027	245,472	238,934	231,836	224,208
女	257,132	260,007	259,995	257,633	253,638	248,129	241,136	233,292	225,387
前回国調との比較 (総数)	9,343	6,021	-3	-4,863	-8,229	-11,065	-13,531	-14,942	-15,533

国勢調査実施年

## (2) 年齢3区分別人口の推移

年少人口（0～14歳）は、現在でも減少を続けているが、平成42（2030）年には、5万人台へと減少し、平成62（2050）年には、48,037人まで減少するものと推計される。また、生産年齢人口（15～64歳）は、平成22（2010）年の337,975人から、平成42（2030）年には、301,923人と約3万6千人減少し、平成62（2050）年には、236,190人となり、20年間で更に、約6万5千人減少する見通しとなっている。老年人口（65歳以上）は、平成42（2030）年に146,302人となり、平成62（2050）年には165,368人となり、平成22（2010）年と比較すると、約6万5千人増加するものと見込まれる。

【図2】年齢3区分別人口の推移



【表2】年齢3区分別人口の推移

	実績値	推計値								
		H22 (2010)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)
総数	511,739	517,760	517,757	512,894	504,665	493,601	480,070	465,128	449,595	
実数	年少人口	72,851	70,762	66,863	61,831	56,440	53,533	52,050	50,463	48,037
	生産年齢人口	337,975	324,771	315,363	309,339	301,923	288,023	266,937	249,791	236,190
	老年人口	100,913	122,227	135,531	141,724	146,302	152,044	161,083	164,874	165,368
	65～74歳	54,980	67,379	69,460	60,651	57,570	61,958	70,651	71,303	63,288
	75歳以上	45,933	54,848	66,071	81,073	88,732	90,086	90,432	93,571	102,081
比率	年少人口	14.2%	13.7%	12.9%	12.1%	11.2%	10.8%	10.8%	10.8%	10.7%
	生産年齢人口	66.0%	62.7%	60.9%	60.3%	59.8%	58.4%	55.6%	53.7%	52.5%
	老年人口	19.7%	23.6%	26.2%	27.6%	29.0%	30.8%	33.6%	35.4%	36.8%